

1. 課題名：抗菌薬適正使用と耐性菌発生の関連性の検討

2. 研究組織

研究責任者：所属 臨床感染症学 職名 教授 氏名 飯沼由嗣

研究担当者：所属 臨床感染症学 職名 准教授 氏名 馬場尚志

所属 医療安全全部感染制御室 職名 副室長 氏名 野田洋子

所属 薬剤部 職名 主任 氏名 山本康彦

所属 臨床検査技術部門 職名 臨床検査技師 氏名 金谷和美

3. 研究計画（意義、目的、方法等）

研究期間 承認日～ 2013年 6月 30日

（研究対象となるデータは2010年4月1日～2013年3月31日までのデータを用いる）

意義・目的：本研究は私立医科大学病院感染対策協議会に属する附属病院である29施設が共同して、我が国における抗菌薬の使用量と薬剤耐性菌の発生の関連性について研究するとともに、大規模病院における感染対策チーム（ICT）を中心とした抗菌薬適正使用の指導のあり方について検討するものである。このような大規模病院での多施設共同の取り組みは我が国全体における院内感染対策の向上に大きく寄与すると思われる。

方法：（1）研究施設におけるデータの集計

薬剤耐性菌発生状況調査、抗菌薬使用状況の調査、ICT活動の状況の調査を行う。

（2）データの集計および解析

当院を含む本研究参加施設のデータの集計は財団法人日本私立医科大学協会がとりまとめ、解析は同協会および同協会に属する感染対策協議会事務局（慈恵医科大学感染対策室内）で行う。

4. 当該臨床研究に参加することにより期待される利益及び起こりうる危険並びに必然的に伴う不快な状態

対象が被る不利益はない。有害事象も生じない。

5. 個人情報保護の方法（被験者を特定できる場合の扱いを含む）。

本研究は、各施設の薬剤使用量や薬剤耐性菌の集計データを集積し、解析を行うものであり、患者の個人情報および臨床情報は含まれない。当院のデータは暗号化し、本研究の事務局である慶應義塾大学医学部感染制御センターに送られる。解析は当院では行わず、研究に参加した他施設のデータとともに、日本私立医科大学協会および感染対策協議会事務局にて集計解析が行われる。

6. 共同臨床研究機関の名称

岩手医科大学附属病院、日本大学附属板橋病院、日本医科大学附属病院、東邦大学医学部附属病院、東京医科大学病院、東京女子医科大学病院、東京慈恵会医科大学附属病院、慶應義塾大学病院、昭和大学医学部附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、関西医科大学附属病院、大阪医科大学附属病院、久留米医科大学附属病院、北里大学病院、杏林大学医学部附属病院、川崎医科大学附属病院、聖マリアンナ医科大学附属病院、帝京大学医学部附属病院、藤田保健衛生大学附属病院、兵庫医科大学附属病院、愛知医科大学附属病院、福岡大学医学部附属病院、自治医科大学病院、埼玉医科大学附属病院、金沢医科大学附属病院、獨協医科大学病院、近畿大学医学部附属病院、東海大学医学部附属病院、産業医科大学附属病院